



ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2017年 8月27日発行

vol.4

編集・発行／

ベガルタ仙台レディース後援会

(通算 vol.26)

☆ベガルタセタ☆ 今年も登場

サポーターの皆さんが願い事や選手たちへの激励を書いた短冊で装飾された「ベガルタセタ」が、今年も仙台七夕まつりの期間中、青葉区中央2丁目のクリスロード商店街にお目見えしました。

トップチームの市民後援会とレディース後援会が共同で行っている恒例企画です。前号の後援会通信でもお知らせしたように、レディース後援会は7月のホーム全3試合でメッセージを募集。寄せられたたくさんの短冊などを吹き流し部分に貼り付けて出来上がった「ベガルタセタ」は、まつり初日(8月6日)の朝早く、クリスロード商店街にある仙台放送のイベントスペース「仙台縁日」前に飾られました。

皆さんが書いた短冊をちょっと拝見。「マイナビベガルタ仙台、優勝しますように!!がんばれー」「ケガなく走り抜け!!」といったオーソドックスなものから、「井上綾香、ゴールを決める!!」「万ちゃん、なでしこ選出おめでとう」など個々の選手へのエール、さらには「BIG1等当選して個人スポンサーになる!!!」と、まさしくビッグで夢いっぱいの願い事まで、さまざまです。お一人お一人の熱い思いが、どうぞ、星に届きますように。

「ベガルタセタ」はトップチームの磐田戦(9日)でもユアスタのコンコースに飾られ、来場者の目を楽しませました。



▲ 今年もまつりの一角を彩ったベガルタセタ
=8月6日・クリスロード商店街

九州北部豪雨被災地への義援金を募りました



▲ 選手の呼び掛けに応え、義援金を寄せてくださるお子さん
=7月22日・ユアスタ

福岡県、大分県を中心に甚大な被害をもたらした九州北部豪雨の被災地を支援しようという募金活動が、7月15日と22日のレディースのホームゲーム会場で行われ、後援会もサポーター有志の皆さんとともにお手伝いさせていただきました。

嘉数飛鳥選手をはじめとするレディースのメンバーが「募金、よろしくお願ひします!!」と大きな声で呼び掛けると、来場者の皆さんが次々と足を止め、協力していただきました。2日間で集まった義援金は12万5578円。募金活動はこのほか、トップチームの試合やソシオフアンクラブ感謝の集いなどでも行われ、(株)ベガルタ仙台からの10万円を加えた総額53万2881円がアビスパ福岡を通じて被災地に送られたということです。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。



ベガルタ仙台レディース後援会
SINCE 2012

レディース後援会のホームページ <http://vegalta-ladies.com/>



MF ^{み はし}三橋 ^{ま な}真奈 選手(22歳)

●周りの強力サポートに感謝●

今年からチームのタイトルパートナーとなった(株)マイナビ。その宮城支社に勤務し、電話対応をはじめ、エクセルやパワーポイントを使ったパソコンでの資料作成、主催するセミナーでの受付などの業務に携わる。

「4カ月たち、『お名刺、頂戴します』と、だいぶ出来るようになりました」と謙遜するが、人と接するのはもともと苦手ではない。最近嬉しかったのは、就職活動でエントリーした学生に電話をかける仕事をさせてもらえるようになり、そのうちの一人と初めて「次の予約」が取れたことだという。

「周りが優しい方ばかりで、すごく丁寧に教えてくださる」ので、仕事で困ったことや、サッカーとの両立をしんどく感じたことはない。「私が試合に出たり、あぐり(職場の同僚の鈴木選手)が年代別代表に選ばれたりすると、それが社内メールで流され、見た人がまた声を掛けてくれる—そんな時、サポートされていることを特に強く感じます」と、感謝を口にする。

●通勤時には本を読むように●

オフが1日だと借りてきたDVDを見たりして過ごすことが多いが、2日あれば出掛ける行動派だ。「日本の全県を回りたくて、今は東北を制覇しようと思ってる」のだとか。最近だと車で、田沢湖へカヌーをしに行ったり山形へラフティングをしに行ったり。動物も好きで、小岩井では牛や馬がいっぱいいて感激した。「浜田(遥)さんと一緒のことが多いですね」

地下鉄での通勤時には本を読むようにしている、という一面も。「大学時代、監督から読書の大切さは言われていたんですが、その頃はあんまり…。でも、せっかく時間があるならと、今は意識して読むよう心掛けています。サッカー関係が多いんですけど」と、はにかむ。当時と変わったことと言えば食事もだ。ほぼ外食だったのが、今では自炊がメインで「肉じゃがを作れるようになりました」。

ピッチで躍動する選手の皆さんの職場での姿やプライベートな素顔の一端を紹介する「ふだん着の織姫たち」シリーズ。今回は、MF登録ながら右SBを主戦場に、さまざまなポジションで活躍するルーキーの三橋真奈選手(背番号27)です。

自分のことを「天然ではないんですが、何かやらかしてしまうことが多くて、おっちょこちょいだと思っています」と分析。「でも、そう言うと周りのみんなから『可愛くないでえ』って言われるんですよ」と、この時ばかりはちょっぴり不満そう。

●まずはチームに貢献したい●

マイナビベガルタ仙台レディースへの入団を決めたのは、大阪体育大4年の時、一つ先輩の本多由佳選手から「いいチームだよ」と聞いていたことや、練習に参加してみて「レベルが高く、自分が成長できると感じた」から。「みんなすごく優しくていろんなことを教えてくれ、コミュニケーションを取ってくれるのでやりやすいです」と、すっかり水に馴染んでいる。

ルーキーながら、開幕戦以来少しずつ出場機会を増やし、最近では右SBとして先発を続ける。だ



が、自己採点は50点と辛い。「納得いくプレーが出来ていない。技術も判断のスピードも劣っています。そういうところをもっと成長していかなければ」

一緒に練習しているチームメイトから「なでしこジャパン」

に招集される選手が続出。自身もU-23の代表歴があるだけに、刺激になるのでは? そう水を向けると「なります。でも、まずはチームに貢献することが一番だと思っています。そこがなければ『なでしこ』はありません」と、地に足が着いた答えが返ってきた。

文 : K. Tsuge

イラスト : K. Honma

(8月3日 取材)